

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>笑顔いっぱい みんなの夢に一歩前進! ~ 一生懸命がかっこいい! 一人一人のよさが輝く学校 ~</p>	① 基礎・基本の確実な定着と学力の向上 ② 家庭との連携の強化と基本的な学習習慣と生活習慣の定着 ③ 校内研究の充実と教師の資質向上 ④ 心の教育と健康・体づくりの推進 ⑤ 教職員の働き方に関する意識改革

達成度	A: ほぼ達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である
-----	--

3 目標・評価

① 基礎・基本の確実な定着と学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・基礎学力の定着	・北波多小基礎学力テストで合格率80%以上を目指す。	・「北波多小型授業」の定着と改善を図り、より「わかる授業」づくりの取組をする。	A	・北波多小基礎学力テストは、ほぼすべての学級で80%以上の合格率であった。 ・「学校の勉強がわかる」 児童の自己評価・・・95% ・「先生や友達の話をよくきいている」 児童の自己評価・・・96%	・主体的・対話的な学習を取り入れた「北波多小型授業」の定着と改善を図り、「わかる授業づくり」を実践していく。
		・学習習慣の定着	・学びの約束の指導の徹底を図る。	・「北波多小学びの約束」を全校に提案し、基本的な学習習慣が身につくまで全職員で取り組む。	A	・「北波多小学びの約束」の状況を定期的に調査し、学習習慣の定着を図ることができた。 教師の自己評価・・・100% ・毎学期の「学びの約束週間」を通して、定着に努めることができた。	・「北波多小の学びの約束」を継続して取組み、学習習慣の定着へ継続して取り組んでいく。 ・「家読」の取組を学校側からも積極的に保護者に働きかけていく。

② 家庭との連携の強化と基本的な学習習慣と生活習慣の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○地域や家庭との連携	・学校支援ボランティア連絡協議会を中心とした地域連携の一層の推進	・学校支援ボランティア連絡協議会を開催する。 ・学校評価アンケートでの肯定的評価80%以上を目指す。	・「生活アンケート」調査から学年の傾向を知り、保護者と連携して改善に取り組む。 ・学習活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。	A	・学校支援ボランティア連絡会を開催し、十分に活用できた。 年間のべ・・・286名 ・「保護者、地域と連携できている」 保護者の評価・・・92%	・テレビやスマートフォンの視聴時間が長いので、家庭学習の取組を充実させるために保護者との連携を取り、ノーテレビ・ノーゲームの定期的な取組を進める。

③ 校内研究の充実と教師の資質向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○校内研究の充実と教師の資質向上	・自他を大切にし、お互いを認め合う態度の育成 ～人権が尊重される授業づくりの実践～	・授業研究会を開催し、人権意識を高める実践を行う。	・全学級において、認め合う仲間作りを視点においた授業研究会を実施する。 ・講師を招聘し、理論と実践ふまえた研修会を開催する。	A	・校内研究は、全職員の協力体制のもとで、積極的に取り組み、研究発表会を開催することができた。 教師の自己評価・・・88%	・校内研究の目標、方法、内容をさらに具体化し、実践内容を精選する。今後も「人権の視点を大切に授業づくり」に取り組む。 ・小中連携した取組を継続していく。

④ 心の教育と健康・体づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・自発的、自治的かつ協力する態度の育成	・集団の中で積極的に活動する態度、協力する態度を伸ばす。児童による自己評価80%以上を目指す。	・学校行事・集会行事・学級経営等の取組を「心を育む」というめあてで一貫した活動に取り組む。 ・児童がめあてを持ち活動できる工夫をする。	A	・「学校が楽しい」 児童の自己評価・・・96% ・「命の尊さ・豊かな心を育てている」 保護者の評価・・・91%	・学校行事・集会行事・学級経営等の取組に「自己肯定感を育てる」というめあてで一貫した活動を仕組んでいく。 ・小中連携した取組で「人権教育」の充実を図る。 ・「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取組を実践する。
		・「いじめは絶対に許さない」という思いをもって行動する態度の育成	・いじめの早期発見、早期対応に取り組む。	・「いじめに関するアンケート」を実施する。 ・アンケート結果の活用、日常の観察、子ども支援協議会、連絡会での情報交換を行う。	A	・「いじめのない楽しい学校づくりができています」 保護者の評価・・・87% ・「いじめを見逃さない指導ができています」 教師の自己評価・・・100%	・「いじめ」については、学級の状況を把握するアンケートの継続と全職員で児童の生活状況を把握する体制づくりの強化を進める。 ・携帯電話、スマートフォンの啓発を行う。
		・運動習慣の改善や望ましい生活習慣の形成	・アンケート調査から運動習慣について、教師の自己評価80%以上と児童の自己評価80%以上にする。	・児童がめあてを意識しながら取り組む学習を実践する。 ・体力テストの結果を考察し、基礎体力の向上を考えた体づくりの内容を充実させる。	A	・「体力づくり、健康の保持増進に取り組む」 教師の自己評価・・・100% ・「毎朝、朝食を食べている」 児童の自己評価・・・94%	・テレビやスマートフォンの視聴時間が長いので、家庭学習の取組を充実させるために保護者との連携を取り、ノーテレビ・ノーゲームの定期的な取組を進める。

⑤ 業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・勤務の効率化と時間外業務の削減	・徹底した業務改善を進める。 ・時間外業務50時間をこえない。	・定時退勤日の確実な実施を図る。 ・行事の準備や会議の効率化を図る。 ・特に事情がない限り、20時には勤務を終了する。	B	・業務改善への取組は、概ねできたが、まだ十分とは言えない。 教師の自己評価・・・76% 時間外業務の月平均・・・42時間21分 ・行事の精選と業務の見直し、業務の効率化が課題である。	・時間外業務の月平均を全ての職員が50時間以内とする。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

【本年度のまとめ】
 ・学校教育目標は、教職員、児童、保護者へ十分に周知している。
 ・全国・県学習状況調査やCRTの結果は、ほぼ全国平均と同等の結果であった。児童の達成状況に応じた補充学習を確保し、基礎学力・活学力の向上を図っていく必要がある。
 ・児童に「学校は楽しい」と回答する児童が96%と大変良好な学校生活を送っている。「支持的学級づくり」を基本に「わかる授業づくり」の取組の成果と考える。特に、「人権教育総合推進地域事業」の研究により、小中連携した「心の教育」が充実していた。

【次年度の取組】
 ・教育活動の実際を参観してもらったり、学校HPや学校だより、学級だよりの情報発信を増やしたりすることで、保護者・地域の方への連携と協力をさらに強めていく。
 ・学力向上については、学習規律や生活規律の徹底を継続することに加え、指導法の工夫・改善を根気強く全職員で取り組んでいく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目